

孫の手通信



第9号

平成 21 年 8 月 7 日

玉川 孫 一 郎 と 歩 む 会

TEL/FAX: 050 (5549) 6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

玉川孫一郎、就任一年を振り返る

公約の達成状況と今後の展望

第三回（全三回）

●今年度の取り組み

【住民参加の基本計画作成】

二〇一一年度からスタートする町の長期基本計画を作成します。東京のコンサルタントに高額で丸投げするという旧来型の手法ではなく、住民参加によるまちづくり委員会を設置し進めていきたいと思っています。

【自立のための行財政改革プラン】

主に役場職員発案で、自立のための行財政改革プランを作成したいと考えています。

【住民参加の予算編成】

前の第7号でも少し触れましたが、予算編成前の秋口に、第二回目の町長と語る会を開き、住民参加による予算編成を実現したいです。

【道の駅】

道の駅の具体的検討に入りたいと思っています。アクアラインの料金引き下げを追い風に、一宮観光のキーステーションとして、また農作物の直販振興の要としての

役割が期待されています。

【東浪見土地区画整理事業の解決】

東浪見土地区画整理事業も長年にわたる難しい案件ですが、町民の理解を得た上で、早期に解決したいと考えています。

【一宮中学校体育館の立て替え】

国の緊急対策事業交付金を活用して、以前から耐震性で問題のあった一宮中学体育館を多目的施設として建て替えます。

【町制百二十周年記念事業の準備】

一宮町は来年初より町制百二十周年。その記念事業の準備を進めていきます。お金をかけなくても皆さんが楽しく参加できる夢とアイデアあふれる記念事業の提案をお願いいたします。

●合併問題

合併協議会は廃止になりましたし、長生郡市の各首長は、二度も破綻した現在の状況では合併は難しいというのが共通の判断です。あくまでも各市町村が行財政改革を行い、財政基盤を確立していく、それがまず肝心なことだと思います。

そんな中、ついに国が平成の大合併の方針を転換しました。無理な合併により周辺部が寂れ、活力を失ってしまった自治体のことも明らかになってきました。

市町村合併は、いついかなる場合でも、それぞれの地域の特性や歩んできた歴史、社会的・経済的圏域としての一体性などを総合的に勘案し、将来への明確な展望を持って、そしてなによりも住民意思を集約し、自主的になされるべきものです。規模や数字だけで国や県が作り上げようとする議論は、地方分権の流れに逆行するものです。

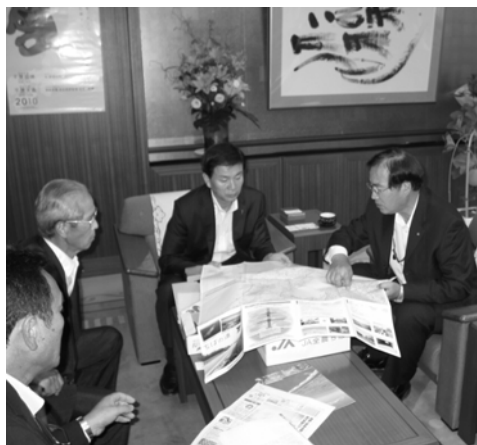
わが国の国土、歴史、文化等の地域事情を考えれば、多様な自治体が存在することが自然な姿であり、この国の活力の源泉だと思います。

一宮町は住民協働のまちづくりで自立の道を進んでい

きたい、と決意を新たにしています。また今後は、合併に限らず町の命運を決めるような重要案件については住民の直接投票で決するという「住民基本条例」のようなものが必要になってくるでしょう。

●さいごに

初心に返り、気を引き締めてさらなる公約実現のために全力を尽くします。どうぞより一層のご協力をよろしくお願いいたします。



平成 21 年 7 月 1 日 森田県知事を表敬訪問

一宮のメロンを絶賛していただき、県知事杯サーフィン大会へのご出席についても快いご返事をいただきました。（詳細は「広報いちのみや」をご覧ください。）



平成 21 年 6 月 7 日

「町長と語る会」

一宮町中央公民館大会議室にて

○関連する新聞記事を ご紹介します。

長生郡市の合併 「住民投票する」

一宮町長が表明

市民グループの強い支持で5月の町長選に当選した一宮町の玉川孫一郎町長は26日開会の同町議会で町政運営の基本的考えを述べた。

頓挫した長生郡市の合併問題について、「合併問題は将来また出てくる予想されるが、住民に事前に説明して、住民投票を実施して、議会とともに考えたい」と述べた。

長生郡市の合併では田中豊彦・茂原市長が合併反対の石井俊雄村長が再選された長生村を除く1市5町での合併を検討しており、他の自治体の動向が注目されている。

平成 20 年 6 月 27 日
朝日新聞



住宅地として平均地価上昇率が県内トップ、全国では3位に浮上した一宮町の海岸沿いの住宅地

県内の地価は東京近接地域の上昇率が鈍化した一方、地方圏の下落も底感から小幅となり、二極化に歯止めがなかった。米サブプライム住宅ローン問題に端を発した世界的な景気減速の影響で、東京近接地域の浦安市の住宅地価が下落に転じた一方、地方圏の一宮町では、サブプライムに好適の地として県内外からの移住者が増加し、全国でも屈指の上昇率を記録した。

(本記1面)

一宮町、上昇率トップ

地価調査 供給過剰の鎌ヶ谷は下落

住宅地の上昇率では、9%の一宮町が首位。景気減速などで上昇率の鈍化や下落に見舞われる地域が多い中、上昇に転じた昨年からのさらに上昇率を上げ、北海道のニセコ、長野県の軽井沢に続き、地方圏としては全国三位となった。今回の土地調査の代表幹事である高橋繁不動産鑑定士によると、海岸に近い国道沿いでは、共同名義で一戸建て住宅を購入するケースや、賃貸物件が目立ち、「サブプライム」が休憩や短期滞在に使う物件の需要が高まっている。物件購入者の二、三割は県外出身者で、移住者も増えているとみられる。

サブプライムが移住

一人で、一年半前に東京都から移住した小川由美子さん(38)は「もともと一宮にはよく来ていたが、毎日サブプライムができる環境が欲しかった。神奈川と千葉で迷ったが、家賃の安さと波の良さを選んだ」と海辺の生活を満喫していた。

(以下略)

平成 20 年 9 月 19 日 千葉日報 第 4 面

加納久宜没後90年で ボランティア募清掃

一宮 宮

元一宮町長の故加納久宜氏(八四八・一九一九年)をしのんで、没後九十年を迎えた二十六日、一宮町の城山公園内にある町指定文化財「加納久宜公の墓」を

ボランティアらが清掃した。加納氏は麻生太郎首相の曾祖父で、東京生まれ。一宮藩の大名として活躍し、維新後は貴族院議員や鹿児島県知事も務めた。一宮町長として農業振興など積極的に取り組み、町発展の礎を築いた。

清掃活動には、玉川孫一郎町長をはじめ地元住民など約十人が参加。玉川町長は「加納さんは一宮町で、農地の区画整理など先駆的な政策を実現した。今の町長として成果を精いっぱい」と述べた。

故・加納久宜氏の墓を掃除する玉川孫一郎町長(中央)ら。一宮町の城山公園

平成 21 年 3 月 2 日 千葉日報 第 17 面

